FUJIFILM

Vol. 88
June 2013

株主の皆様へ
FUJIFILM NEWS

本格的成長期に入る 富士フイルムの医薬品事業

富士フイルムは創業後、間もなくX線フィルムを国産化し、医療分野に参入しました。現在では、画像診断を中心とする「メディカルシステム」、化粧品やサプリメントを扱う「ライフサイエンス」、そして「医薬品」の3つの分野で事業を展開しています。医薬品事業には、感染症治療薬など従来からの低分子医薬品に加え、最先端のバイオ医薬品や再生医療の3つの柱があります。富山化学工業のグループ入りをきっかけに本格参入して5年が経ち、医薬品事業は本格的な成長期を迎えようとしています。

医薬品事業会社による安定成長

現在の富士フイルムグループの医薬品事業の売上は、主要事業会社4社により構成されています。

主要医薬品事業会社

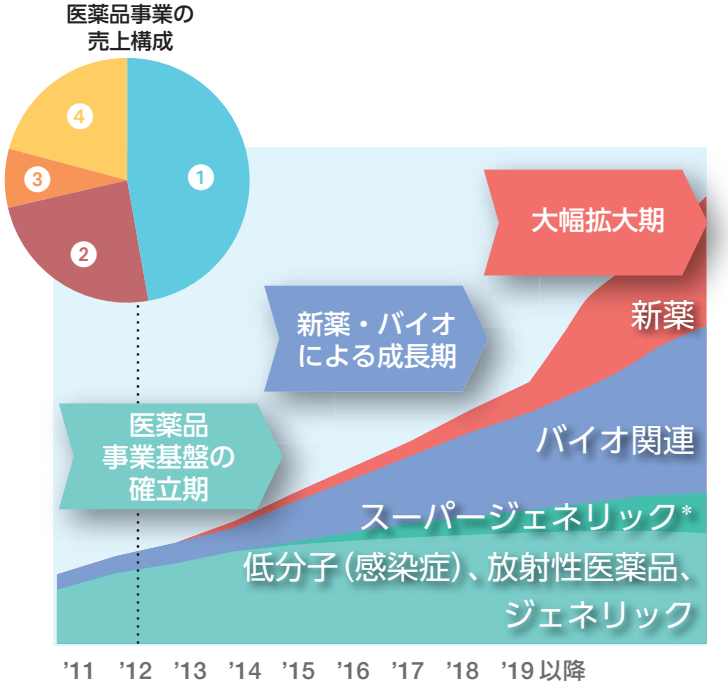
1. 富山化学工業
   感染症領域中心の低分子医薬品の開発・生産
2. 富士フイルムRIファーマ
   放射性医薬品の開発・生産・販売
3. 富士フイルムファーマ
   医薬品の販売
4. 富士フイルムダイオシンスバイオテクノロジーズ
   バイオ医薬品受託製造

これらの事業会社の販売は好調で、2012年度の医薬品事業の売上は前年比で約2割成長しました。2013年度にはさらなる成長で、売上で2割以上の成長、連結黒字化を目指します。

富山化学工業の医薬品「ゾシン」は適応される疾病の領域が広がっており、今後も好調な販売が続く見込みです。またバイオ関連ではバイオ医薬品受託製造の市場が年率10%以上の成長が見込まれるなど、既存の事業会社により着実に成長していきます。

大幅売上拡大期に向けて

将来の大幅売上拡大期に向け、新薬の研究開発にも積極的に取り組んでいます。今後、大幅に売上を拡大させるための成長ドライバーとして、中でもがん領域に重点化し特長ある新薬の研究開発を進めています。富士フイルムグループで初の抗がん剤となる、血液がん向けの新薬「FF-10501」が今年5月、国内で治験に入ったほか、難治性固形がん向けの「FF-21101」が今年度中に米国で治験開始を予定するなど、新薬候補が順調に育ちつつあります。



＊富士フイルムが得意とする、分散技術によるナノ粒子化やコーティング技術などの独自技術を駆使したジェネリック医薬品

医薬品事業を富士フイルムの中核事業へ

感染症を中心とした低分子医薬品、放射性医薬品、バイオ医薬品受託製造で足元を固める一方、スーパージェネリックを上市しつつ、中期的にはがん領域における特長ある新薬の上市・拡販と、バイオ関連事業の拡大によって売上、利益を大幅に拡大し、医薬品事業を富士フイルムグループの基幹事業へと成長させていきます。

株主の皆様へ

2013年度に大幅増益を達成し、ここから再び成長軌道へ

中長期的にも、
写真技術を応用することで創出された幅広い技術を融合し、
ナンバー1・オンリー1の製品・事業を創出、成長を持続させていきます

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2012年度の業績は、売上高が2兆2,147億円（前年比0.9%増）、営業利益は1,141億円（前年比1.0%増）となりました。欧州の景気低迷やIT機器の需要低迷などの厳しい事業環境の中、中期経営計画「VISION80」で展開している成長戦略による成果を出しつつあり、特に成長領域の「ヘルスケア（メディカルシステム、ライフサイエンス、医薬品）」を中心に販売が好調に推移するなど、本格的な成長フェーズに入るための基盤が整いました。

2013年度も成長の柱と位置付けている「ヘルスケア」「高機能材料」「ドキュメント」の3事業分野に経営資源を戦略的に集中投入し、連結売上高2兆3,500億円、営業利益1,400億円の大幅増収増益を目指してまいります。また、2013年度の配当金は、1株当たり40円を予定しております。

2013年度は、「ヘルスケア」はメディカルシステムの売上成長が継続するとともに、先行投資を続けてきた医薬品事業がいよいよ収益に貢献し、大きく成長いたします。「高機能材料」では、タッチパネル用センサーフィルム「エクスクリア」などの新製品や、スマートフォンやタブレットPCなど中小型ディスプレイ向けにフラットパネルディスプレイ材料を拡販します。「ドキュメント」では、グローバルサービス、プロダクションサービス、及びソリューションサービスビジネスを強化します。またグローバル展開を加速し、新興国を中心に市場のニーズに合致した商品の積極的投入やマーケティング活動のさらなる強化を行います。

これら施策については、開発・生産・販売・スタッフのすべてにわたり「現場力」を高め、確実に遂行してまいります。

株主の皆様には、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

2013年6月

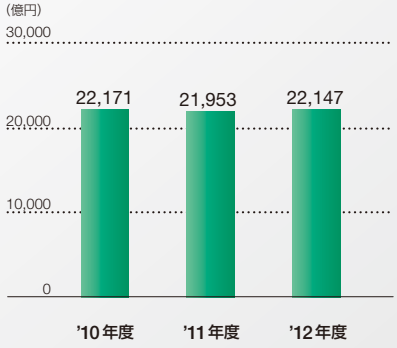
代表取締役会長・CEO　古森重隆

代表取締役社長・COO　中嶋成博

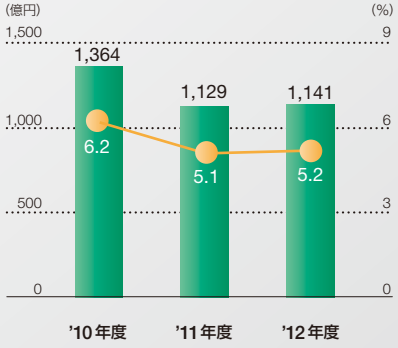
2012年度 連結決算のポイント

売上高：	2兆2,147億円	（前年比	0.9%増）
営業利益：	1,141億円	（前年比	1.0%増）
当社株主帰属当期純利益：	543億円	（前年比	24.0%増）

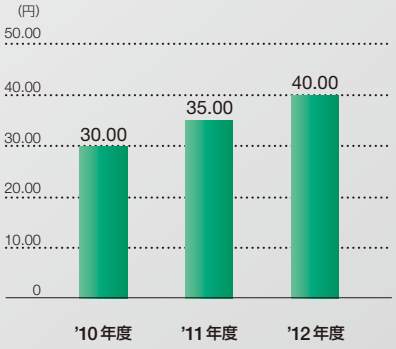
■ 売上高



■ 営業利益／● 営業利益率



■ 配当金



イメージング ソリューション

業績概要

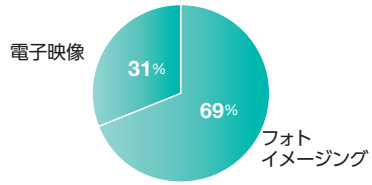
コンパクトデジタルカメラの需要減少の影響を受け、売上は減収。フォトイメージングが好調だったことや、コスト削減施策の実施により損益は改善。

- フォトイメージング事業では、プリント材料製品の販売が堅調に推移しました。特にカラーペーパーは、世界各国で他社からの切り替えや、値上げの実施により、売上が増加しました。インスタントカメラの販売も、アジアを中心に好調でした。
- 電子映像では、「Xシリーズ」をはじめ高価格機種へのシフトを図っているものの、コンパクトデジタルカメラの需要減少の影響を受け、売上が減少しました。

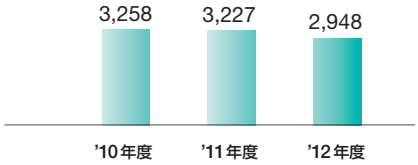
今後の取り組み

- カラーペーパーなどプリント材料製品は、引き続き新興国を中心に拡販し、シェア拡大に注力します。「フォトブック」など付加価値プリントの販売を強化します。
- デジタルカメラでは、「Xシリーズ」などの高価格機種やレンズ交換式システムを拡販します。コンパクトタイプの機種を大幅に削減し差別化商品に集中し、固定費の削減にも努めます。

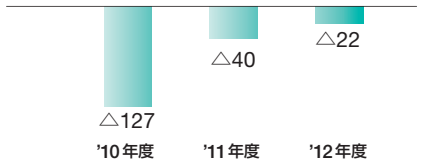
売上高構成比



売上高*
(億円)



営業損失
(億円)



＊セグメント間取引消去後

成長
ドライバー

プレミアムカメラのラインアップ充実

海外でもアワードを受賞したレンズ交換式プレミアムカメラ「FUJIFILM X-Pro1」のスタイルとクオリティを継承した「FUJIFILM X-E1」が好調な販売を続けています。

また今後は交換レンズのラインアップも充実させ、プレミアムカメラ市場におけるブランド力もさらに強化します。

「その場でプリントを楽しむ」が好評

撮ったその場ですぐにプリントが楽しめるインスタントカメラ「チェキ」。発売して15年になりますが、最近では、すぐにリアルなプリントが手に入る魅力が新鮮に写るなど、10代～20代の若い女性層に再び人気を集めており、中国・韓国などの東アジア地域や、マレーシア・インドネシアなどの東南アジアでも大きく販売を伸ばしています。

新サービスでフォトブックを拡販

1年間に撮影された画像から日付や人物の顔などを解析し、上手に撮られた画像などを自動的に選んでスタイリッシュな1冊のフォトブックに編集する「イヤーアルバム」を新たにスタート。このような付加価値あるサービスの提供によりさらなる拡販を図ります。

インフォメーション ソリューション

業績概要

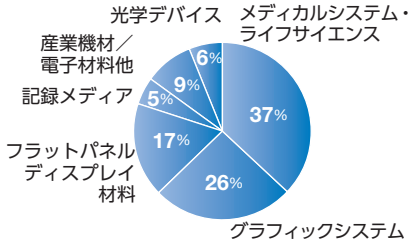
メディカルシステム・ライフサイエンスで2桁％の売上成長を実現したことなどにより、増収増益を達成。

- メディカルシステムは、医療ITや内視鏡の好調な販売、携帯型超音波診断装置メーカーの連結子会社化で売上が大幅に増加しました。医薬品では、富山化学工業や富士フイルムファーマなどの売上増加で、約2割の売上成長を果たしました。ライフサイエンスでも、リニューアルした化粧品新「アスタリフト」や、美白スキンケアシリーズ「アスタリフトホワイト」などの新製品の販売が好調でした。
- フラットパネルディスプレイ材料は、IT機器市場の需要低迷とそれに伴う在庫調整による影響が大きく、テレビ向け需要は好調だったものの、事業全体で売上が減少しました。

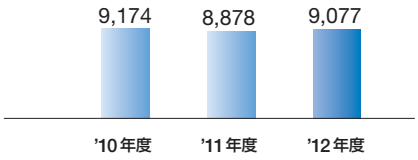
今後の取り組み

- メディカルシステムでは、医療IT、内視鏡、超音波診断装置で売上2桁％の成長を目指すほか、医薬品も増収増益による黒字化を図っていきます。
- フラットパネルディスプレイ材料では、新規需要開拓として中小型ディスプレイ向けを拡販します。産業機材では、タッチパネル用センサーフィルム「エクスクリア」など、独自技術を活かした高機能性材料の市場投入・拡販に努めます。

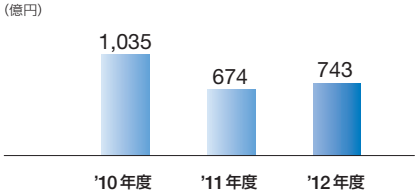
売上高構成比



売上高*



営業利益



＊セグメント間取引消去後

成長ドライバー

医薬品事業の成長を牽引する富山化学工業

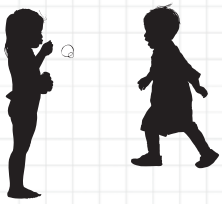
富山化学工業は、世界の肺炎治療ガイドラインにおいて使用を推奨されている「ゾシン」が外科領域まで適応拡大されたことなどにより売上が伸びています。国内初の小児の肺炎、中耳炎に適応を有する小児用ニューキノロン系抗菌製剤「オゼックス細粒」の販売も好調に推移しています。

「ゾシン」

「オゼックス」

市場成長が期待される携帯型超音波診断装置

携帯型超音波診断装置の市場は、約10％の成長が見込まれています。救急などの分野に加え、在宅医療などの需要も高まるとみています。連結子会社化した米国ソノサイト社はこの市場で世界シェア2位を誇り、高い競争力を持っていますが、さらに富士フイルムの画像技術を融合することで、画期的な新製品を開発していきます。



リニューアルした「アスタリフト」シリーズなどスキンケアの新製品が好評

化粧品では、リニューアルした機能性化粧品「アスタリフト」や新・美白スキンケアシリーズ「アスタリフトホワイト」のほか、20～30代女性向け新スキンケアシリーズ「ルナメア」などの新製品が好評です。また働く女性のキレイと元気をサポートする、ビューティー＆エナジードリンク「ビューティーファイター」も拡販します。

「アスタリフトホワイト」

「ビューティーファイター」

「ルナメア」

ドキュメント ソリューション

※ドキュメント ソリューションは、富士ゼロックス株式会社が担う事業セグメントです。

業績概要

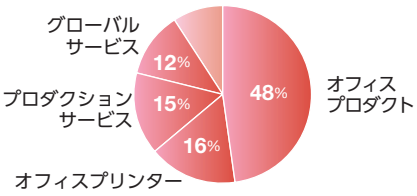
買収した豪州のビジネス・プロセス・アウトソーシング事業を含めたアジア・オセアニア地域での売上増により増収を確保したものの、商品ミックスの変化や販売単価の下落等の影響を受けて減益。

- オフィスプロダクトの国内では、カラー機、モノクロ機ともに販売台数が増加し、市場における稼働台数及びコピー枚数も増加しました。
- グローバルサービスは、国内、アジア・オセアニア地域ともに2桁％の売上成長を実現しました。

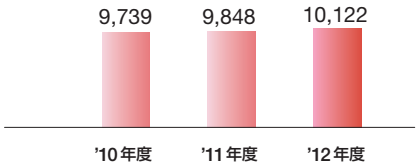
今後の取り組み

- グローバルサービス、プロダクションサービス及びソリューションサービスのさらなる強化と事業拡大に取り組みます。
- 業界トップレベルの省エネ性能と卓越した機能を備えたフルカラーデジタル複合機「ApeosPort-IV（アペオスポート フォー）／DocuCentre-IV（ドキュセンター フォー）」シリーズなど、付加価値の訴求による機器販売のさらなる拡大と収益性の向上に取り組みます。
- 一層のコスト低減と経費削減の推進による収益性改善を目指します。

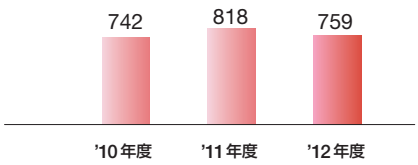
売上高構成比



売上高*



営業利益

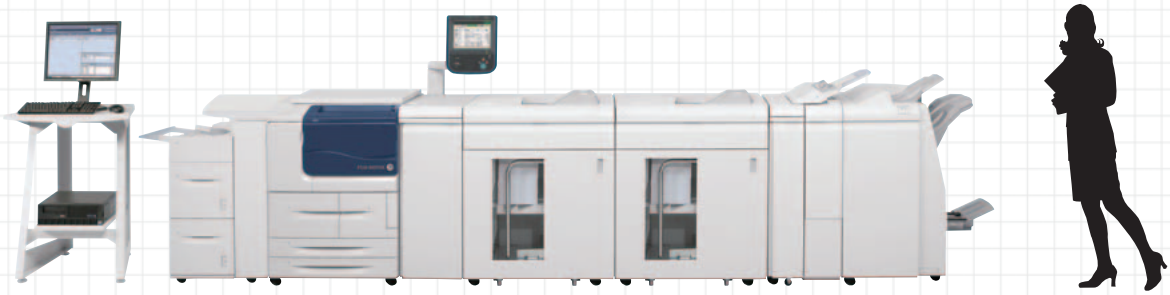


＊セグメント間取引消去後

成長ドライバー

プロダクションサービスの新商品が好調

高速・大容量の基幹業務向けモノクロ・プロダクションプリンターの新商品「D125 Printer／D110 Printer」シリーズは、国内、及びアジア・オセアニア地域において販売が好調に推移しています。富士ゼロックスは、企業内の集中コピー・プリント業務、基幹出力業務、POD（プリント・オン・デマンド）からグラフィックアーツ向けまで、多種多様な出力業務を強力にサポートすることにより、プロダクションサービス事業をさらに強化していきます。



グローバルサービスの加速を目指し、豪州で事業買収を実施

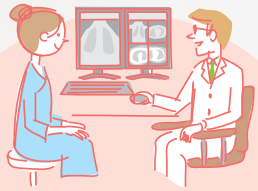
企業のさまざまな業務に伴うドキュメント処理を一括して、企画から運営まで受託するビジネス・プロセス・アウトソーシング事業を、2012年10月に豪州のサルマット社から買収。グローバルサービス事業の売上増加に寄与し、2012年度は大幅増収となりました。今後、同社が培ってきたサービスプロバイダーとしてのノウハウと富士ゼロックスが持つマーケティング力を融合し、アジア・オセアニア地域におけるソリューション・サービス事業をより強力に展開していきます。

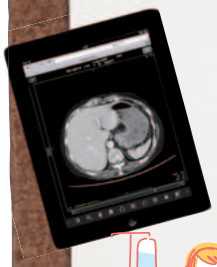
アジア・オセアニア市場にも新商品を続々と導入

アジア・オセアニア地域において、2012年6月に発売したモノクロのデジタル複合機「DocuCentre S2010／S1810」の販売が好調に推移し、オフィスプロダクト事業の売上増加に寄与しています。2013年度も成長するアジア・オセアニア市場で販売を拡大させていきます。

富士フイルムグループの未来
FOCUS

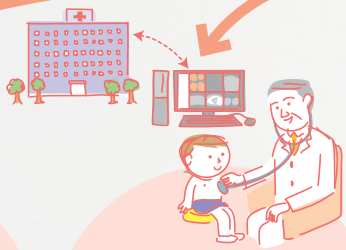
医療の現場をITでサポート





あらゆる医療ITの中核
医用画像情報システム
SYNAPSE（シナプス）
医用画像を診療情報とともに保存、必要に応じてさまざまな形で読み出し、利用することが可能

どこにいても画像を確認
シンクライアント ビューワシステム
SYNAPSE ZERO
スマートフォンやタブレット型端末で画像閲覧が可能。病室や在宅など、さまざまなシーンで医用画像を活用



地域の医療機関を結ぶ
クリニック向けITソリューション
C@RNA（カルナ）
「SYNAPSE」との連携により、地域の医療機関の間で画像情報などを共有、地域医療の質の向上に貢献

救急医療に素早く対応
遠隔画像診断治療補助システム
SYNAPSE ERm
スマートフォンなどの携帯端末で、検査画像や患者の状態など救急医療に関する情報を共有

医師の診断をサポート
類似症例検索システム
SYNAPSE Case Match
独自の人工知能技術で、撮影した胸部CT画像に類似した症例画像を自動的に検索・表示

近ごろは、X線写真をデジタルで撮影し、撮ったばかりの画像をモニターに映してスピーディーに診断してくれる病院やクリニックが増えました。また画像診断がデジタル化したことで、ソフトウエアで画像を見やすく加工できるようにもなり、診断精度の向上にもつながっています。

富士フイルムは1983年、世界初のデジタルX線画像診断システム「FCR」を発売。以来30年間、病院と患者さんのニーズに応えるべく、医療のデジタル化を積極的にリードしてきました。こうした経験をもとに、1999年、医用画像情報システム「SYNAPSE（シナプス）」を開発しました。

一方、医療の世界では、画像診断のさまざまな分野でデジタル化が進むにつれ、X線画像のみならず、内視鏡、超音波などの医用画像を診療情報とともに統合的に管理・運用し、診断や治療を効果的に進めたいというニーズが高まってきました。「SYNAPSE」も当初は放射線科内部での運用を視野に展開していましたが、現場の声に耳を傾ける中で次第に機能を拡張。今では院内システムの基盤として、さらには地域医療連携の核としても活躍しています。

世界の医用画像情報システムの市場規模は約2,300億円といわれていますが、新興国への普及はまだまだこれから。富士フイルムでは、この医療ITの分野で年率10%以上の成長を目指します。1936年にX線フィルムを発売して以降、長年かけて培ってきた医療現場との信頼関係をベースに、今後もITの力で迅速・正確な診断のサポートを行い、世界の患者さんと病院に貢献していきます。

「SYNAPSE」普及状況：国内 約1,850施設・市場シェアNo.1
世界 約3,600施設・市場シェアNo.2＊
2015年度に世界トップシェアを目指す

＊当社推定

継続的な経済成長が見込まれる東南アジア

ダイレクトマーケティング＆セールスによって成長を加速

富士フイルムは1980年代、“世界の富士フイルム”を目指して海外展開を加速。その一環として、シンガポールにアジア初の現地法人を1983年に設立し、今年で創立30周年を迎えました。以来、競争や変化の激しい市場の中で拡販活動を続け、タイ、マレーシアとビジネスエリアを広げ、2011年にはベトナム、インドネシアに、2012年にはフィリピンに現地法人を設立。高い経済成長率を誇る上、経済成長に伴って所得が増加し、高付加価値の商品や医療に対する関心が上がるこの地域において、市場に密着したマーケティング及びセールス活動を迅速に展開する体制を整えるとともに、アフターサービス体制も強化し、富士フイルムブランドの浸透と販売拡大を進めています。

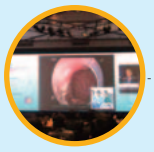
デジタルカメラ

インドネシア

中国・インド・米国に次いで世界第4位の人口約2億4,000万人を有するインドネシア。現地法人設立後、プレミアムデジタルカメラ「Xシリーズ」を核に富士フイルムの技術力・商品力を前面に訴求し、設立約1年半で販路・シェアともに約5倍に拡大させています。また、若年層へカメラの楽しさを理解してもらおうと中高校生を対象とした写真教室「Fujifilm Goes to School」や、社員自ら撮影し作成した機種ごとのサンプル写真集や広告宣伝用のポスターなどで品質訴求を行い、さらなる拡販を狙っています。

ベトナム

国民の約6割が30歳以下と若く、2010～2012年まで年率約6%の経済成長率を記録するベトナム。デジタルカメラの新商品発表会は、スタイリッシュなプレミアムデジタルカメラ「Xシリーズ」を若い世代にもアピールすべく、工夫を凝らしたファッションショー形式で開催しました。また、良い商品を安心して購入していただけるよう、アフターサービス体制の整備にも力を入れています。



メディカルシステム

タイ

経済発展とともに成長を続ける医療市場。特に消化器内視鏡での検査は国民所得上昇とともに需要が高まっています。

富士フイルムは、医師育成の手助けとしてバンコクのチュラロンコン大学病院に内視鏡トレーニングセンターを開設。アジア各地の医師に富士フイルムのダブルバルーン内視鏡システム、経鼻内視鏡、超音波内視鏡などを使って理解を深めていただく拠点として活用し、幅広いラインアップを持つ強みを活かしたトータルソリューションで普及を図っています。

アジア・パシフィック地域最大の消化器内視鏡学会「Asian Pacific Digestive Week」

フィリピン

2006年以降の経済成長率が年平均約5%、平均年齢が22歳と若く、今後労働人口や中間所得層の増加が期待できるフィリピン。政府が社会保障分野の充実を表明していることから、医療市場の成長が見込まれています。

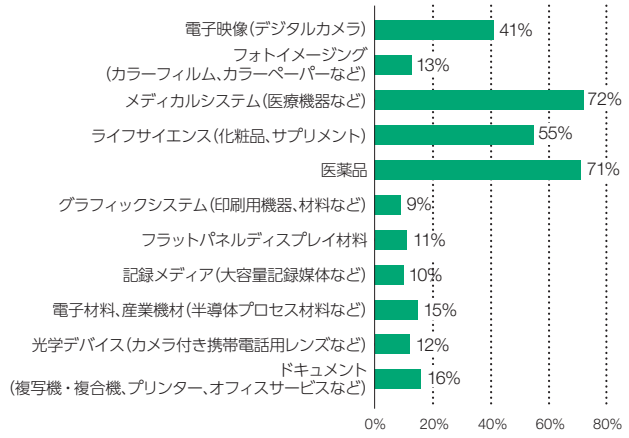
現地法人設立により、医用画像情報システムなどのITを活用したソリューション営業を強化。現地で行われた学会関連の展示会にも出展し、低線量で鮮明な画像が得られるデジタルX線画像診断システム、ネットワークシステムを紹介し、大きな反響を得ました。地域の特性に合わせた価格帯の商品をラインアップするなどの総合力を活かして、今後さらに拡販に取り組んでいきます。

マニラで開催された放射線学会関連の展示会「Philippine College of Radiology」

株主様向けアンケート集計結果

2013年3月発行のFUJIFILM NEWS Vol.87で株主様を対象としたアンケートを実施し、2,361名(回答率2.7%)の方からご回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。内容を抜粋してご報告いたします。

当社のどの事業内容に興味がありますか。(複数選択可)



今回お寄せいただいた貴重なご意見、ご要望は今後の各種施策とFUJIFILM NEWS作成の参考とさせていただきます。

- 株主優待新設は大変嬉しく、アスタリフトトライアルキットをきっかけにヘルスケア商品の愛用を始めました。
- 写真フィルムの技術を活かしたヘルスケア分野、夢のある有望事業への取り組みのさらなる成長に期待しています。
- 各事業・製品の特徴、また海外での事業展開についてもう少し詳しく説明してほしいです。
- 簡潔にまとめ、文字数を減らした平易な紹介に期待しています。

連結財務ハイライト

損益計算書

単位:百万円

科目	2012年度	2011年度
売上高	2,214,696	2,195,293
営業利益	114,116	112,948
税金等調整前当期純利益	119,186	89,187
当社株主帰属当期純利益	54,266	43,758
研究開発費	168,151	173,373
設備投資額	76,660	90,946
減価償却費	141,548	147,775
年間配当金	40円	35円

キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

科目	2012年度	2011年度
営業活動によるキャッシュ・フロー	199,451	135,133
投資活動によるキャッシュ・フロー	△140,934	△185,875
財務活動によるキャッシュ・フロー	128,287	△24,404
為替変動による現金及び現金同等物への影響	23,486	△2,820
現金及び現金同等物純増加・純減少(△)	210,290	△77,966
現金及び現金同等物期首残高	**235,104**	**313,070**
現金及び現金同等物期末残高	**445,394**	**235,104**

貸借対照表

単位:百万円

科目	2012年度	2011年度
資産の部		
流動資産	1,561,287	1,321,991
投資及び長期債権	322,063	279,840
有形固定資産	546,132	553,916
その他の資産	630,114	583,918
資産合計	**3,059,596**	**2,739,665**
負債の部		
流動負債	546,364	692,367
固定負債	488,446	190,814
負債合計	**1,034,810**	**883,181**
純資産の部		
株主資本合計	1,868,870	1,721,769
非支配持分	155,916	134,715
純資産合計	**2,024,786**	**1,856,484**
負債・純資産合計	**3,059,596**	**2,739,665**

会社概要

会社名	富士フイルムホールディングス株式会社
設　立	1934年1月20日
資本金	40,363百万円 (2013年3月31日現在)
本　社	東京都港区赤坂9丁目7番3号
連結従業員数	80,322名 (2013年3月31日現在)

お知らせ

第117回定時株主総会の決議結果について

2013年6月27日開催の当社株主総会において報告及び決議された内容につきましては、当社ウェブサイト(http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir_events/shareholders_meeting/index.html)に掲載しておりますので、ご参照ください。

FUJIFILM NEWS(株主通信)の発行回数について

今後、FUJIFILM NEWS(株主通信)の発行頻度を、年2回とさせていただくこととなりました。
会社情報を分かりやすくご提供するため、誌面のさらなる充実に取り組んでまいりますので ご理解を賜りたく存じます。なお、次号のFUJIFILM NEWSの発行は、2013年12月を予定しております。

株主メモ

事業年度末日　3月31日

定時株主総会　6月下旬

公告掲載

当社ホームページに掲載します。
URL(アドレス)は次のとおりです。
http://www.fujifilmholdings.com/
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

株主名簿管理人

東京都千代田区丸の内1丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先／電話照会先

〒168-0063
東京都杉並区和泉2丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
電話　0120-782-031(フリーダイヤル)

取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の全国各支店で行っております。

単元株式数　100株

住所変更、単元未満株式の買取・買増、配当金受取方法の指定等のお申し出先

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行にお申し出ください。

「配当金計算書」について

配当金支払いの際、送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。
なお、「配当金領収証」にて配当金をお受け取りの株主様につきましても、配当支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。

FUJIFILM

ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C019338 www.fsc.org
GPN Green Purchasing Network 印刷サービスのグリーン購入に取り組んでいます